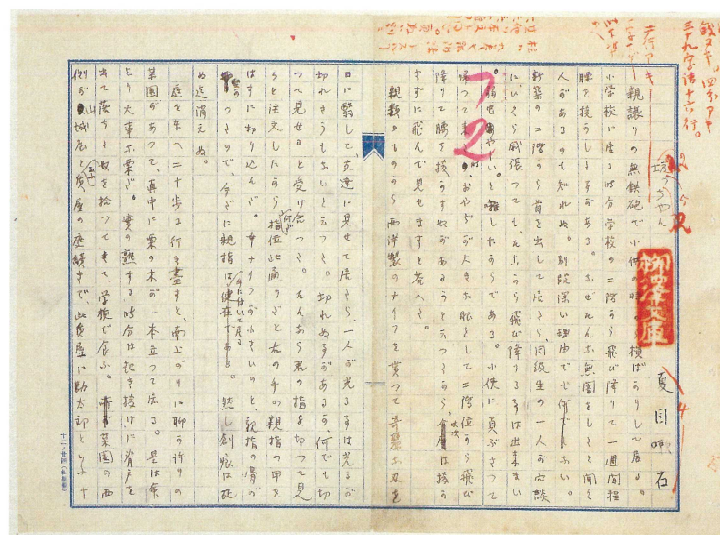


◆一枚の欠けもない

夏目漱石の自筆原稿

『吾輩は猫である』発表後、文名の高まった漱石は、教師を続けながらも次々に新作を発表していきます。掲出の『坊っちゃん』も、そのうちの一つ。この話は『吾輩は猫である』第十章（『陽気』二〇二五年四月掲載）と共に明治三十九年（一九〇六）四月、雑誌『ホトトギス』第九巻第七号に掲載されました。この作品は松山を舞台にして書かれており、漱石が明治二十八年（一八九五）松山にある愛媛県尋常中学へ英語教師として赴任していた頃の経験が活かされています。

二十四行二十四字詰の松



屋製原稿用紙（二三・一×三一・五cm）一五〇枚が、一枚の欠けもなく、現在は台紙に貼り付けられ一冊にまとめられています。原稿用紙一五〇枚中、題名の書かれた扉が一枚、本文は一四九枚です。

画像中の「嗽石」の名は、おそらく雑誌編集側により校正・割付の際に書き加えられたものでしょう。雑誌『ホトトギス』掲載時には「漱石」に改められています。原稿用紙三十五枚目の左半分には切り取り跡があり、その用紙裏には割付時に書かれたと思われる文字が見えます。また当資料には旧蔵者水落露石の識語と、現装以前に使用されていた

と思われる和綴時の表紙・裏表紙が同冊子中に貼り付けられており、識語からはこの原稿が高濱虚子から露石の手に渡ったことがわかります。

天理図書館創設者である中山正善二代真柱は夏目漱石が好きで、特に『吾輩は猫である』には影響を受けて「吾輩は蚊である」から始まる『蚊の説』という文章を書いており、『坊っちゃん』は愛読書であると述べています。当館には、『吾輩は猫である』第十章、『坊っちゃん』以外にも『三四郎』（『陽気』二〇〇八年十一月掲載）等の漱石自筆資料が多数所蔵されています。

（天理図書館 池谷 礼）

<天理図書館のお知らせ>

Tel 0743-63-9200 URL <https://www.tcl.gr.jp/>

本書は、天理大学創立100周年を記念して、天理図書館が開催する「漱石・子規・鷗外一文豪たちの自筆展―」（5/18～6/15 天理ギャラリー・東京、10/15～11/17 天理参考館・天理）にて展示します。

※最新の情報については公式HP、X（旧 Twitter）でご確認ください。

▶【ぼっちゃん】

夏目漱石自筆

1冊

明治39(1906)年頃

縦25.5cm 横38.7cm

